

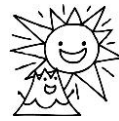


## 十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。



平成28年

## 1月の園だより



第二みみょう保育園

### 「何かしたくなる子に」

新年あけましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

この一年が子どもたちにとって、また保護者の皆様方にとって、良い年であることを心より念じ申し上げます。

さて、元日の中国新聞に、2015年の人口動態統計として、赤ちゃんの出生が100万8千人と推計され、前年を上回ったのは2010年以来のことである一方、亡くなられた方は130万2千人であり、人口減少幅は過去最大であるとありました。

日本では、出生率の低下などを背景に、2005年よりすでに人口減社会に突入していましたが、その人口減少幅が過去最大になり、ついに日本は世界に類を見ない人口減少時代に突入したということです。経済・租税・福祉・教育など、様々な分野への社会的影響を含めてとても深刻な問題です。

今後、日本は、多様な人材を活かす社会づくりへとシフトしなければなりませんし、そのためには教育改革が行われようとしています。

昨今、子どもたちが置かれている現況は、少子化、グローバル化の進展や技術革新など、社会の変容とともに非常に厳しい挑戦の時代にあり、これからの子どもたちには、従来の教育で重要視されてきた記憶力や教えられた通りに正確に行う能力ではなく、自分が向き合っている問題を解決する能力（問題解決能力）が求められます。そのためには、子どもが主体的に問題を発見し、解決していくというアクティブラーニング（能動的学習）が重要となってきます。

アクティブラーニングとは、易しく言えば「学び合う力」です。無藤隆・白梅学園大学教授は、「学び合う力」とは、興味を持ち、集中し持続し挑戦する力であり、子どもたち同士がある方向に向けて協働できるようになるということが、学習するということに向けての始まりであると述べておられます。一例と

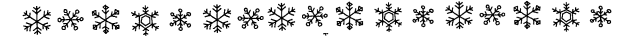
して、生活発表会で、子どもたち自らがどんな劇をしたいかイメージし、子ども同士で話し合いながら普段のあそびや絵本の中からテーマを決め、それぞれの役柄に合わせてセリフや衣装、道具類を決めていくプロセスが学び合う力です。

2015年に子ども・子育て支援法が施行され、教育的側面への関心がますます高くなってきました。これからは、子どもが主体となった協働的な学びであるアクティブラーニング（能動的学習）を通して、「基礎力」、「思考力」、「実践力」を身につけさせていく必要があります。そのためには、これまで実践してきた保育と同様に、保育者は、子どもたちの興味・関心を見極めながら、あそびや素材を用意して遊びたくなるような環境を整え、子どもの活動を見守り、時には仲立ちとなりながら、様々なことに友だちと相互に刺激し合いながら協働し挑戦していく意欲を育てていかなければなりません。

また、赤ちゃんの時にしっかり可愛がられ、相手をしてもらうことで自己肯定感が育まれ、五感を通して身体で感じる様々な経験が「もっと〇〇したい」という意欲をどんどん高めていき、幼児期の協働的な学びの充実につながってくるものと考えます。

みみょうの保育理念に、「感謝」と「思いやり」のある「自主的な行動がとれる子」が掲げられていますが、まさにみみょうの保育は「基礎力」、「思考力」、「実践力」、言い換えれば「生きる力」の基礎である「何かしたくなる子」を育む教育であり、「子どもが主体となった協働的な学び」であると考えます。

これからも保育者一同、みみょうの保育理念に誇りをもちながら、一生懸命に子どもたちと向き合い、「楽しい保育」を実践してまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



家を、子どもが  
いちばん安心できる  
場所にしましょう



お母さんとべったりで良かった赤ちゃん期が終わり、幼児期になると少しずつ社会に出ていくことになります。

子どもにとって親の愛情にたっぷり包まれて、ありのままの自分でいられる場所があれば、子どもはやる気を持って外の世界に向かっていくことができます。そんな安らぎの糧環境があってこそ、人を思いやる心優しさも育つのです。

言葉・詩 山崎房一



## とんど祭り



小正月の行事で、正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを、長い竹、萱、藁などを組んだものに飾り付け、燃やすという、日本全国に伝わるお正月行事です。また、残り火で餅や、団子を焼いて食べると、その一年元気で過ごせるといういわれがあります。

今年も、東雲本町公園で11日（月）13：30から行われます。

ご家族で、お正月の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。

消さないで  
あなたの心の  
注意の火



広島市南消防署  
警防課 救助係